

2017年度 第3四半期決算説明会  
主な質疑応答

● 全社

Q：通期業績予想の達成に向けては、第4四半期の事業利益水準が前年同期から大きく改善する前提となっているが、円安によるプラス効果以外でどのような改善項目があるのか教えて欲しい。

第4四半期も将来成長に向けた費用は投下するが、第3四半期までの力強い売上収益の増加による効果が表れると考えてよいのか。

A：売上収益の成長は継続するものと考えている。

とりわけ、大容量インクタンクモデルは需要そのものが力強い。インドの税制改定の特需があり、また、先進国での拡大も継続している。

さらに、昨年度は販売していなかった高速ラインインクジェット複合機も徐々に売上に寄与するとともに、プロフェッショナルプリンティングやビジュアルコミュニケーション、ロボティクスソリューションズも力強く伸びている。

加えて、第3四半期に発生した、一部部品の調達納期変更による大容量インクタンクモデルの第4四半期への販売のシフトや、インクカートリッジのチャネル在庫削減による第4四半期への販売のシフトなども加味した。

第4四半期のインクジェットプリンター本体の生産に関わるコストも、前年同期比で減少する見込み。

Q：前回予想から、設備投資、減価償却費の予想をそれぞれ20億円増額したが、どのような変化があったのか。

A：設備投資は、製造拠点の拡張を視野に入れ、海外で用地買収を進めている。また、金型投資なども18年度から前倒しで進めている。

減価償却費は、主に為替水準の変化によるものであり、今回の予想の増額に設備投資の増加影響は無い。

Q：2018年度は、Epson 25 第1期中期経営計画の最終年度であるが、2018年度の業績目標の考え方を教えて欲しい。

A：社内で検討を進めている最中であり、具体的には4月末の通期決算説明会のご説明させていただくが、中期経営計画の目標に掲げた、売上収益事業利益率8%の達成を目指していることに変更は無い。

以上